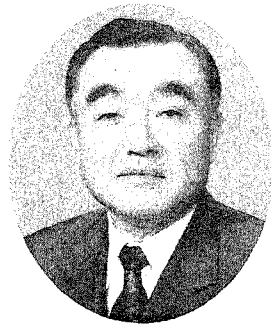


# 豊かで住みよいまちづくり



都留市長 都倉 昭二

平成九年の年頭にあたり、市民の皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、文教都市の建設を目指し、これまで市民の皆様とともに取り組んでまいりました本市のまちづくりにおいて、一つの大きな成果が実りました。

それは、二十一世紀を拓く本市の芸術・文化活動の拠点として、都留市文化ホール「うぐいすホール」がオープンしたことであります。

この「うぐいすホール」は、豊かな自然に囲まれ、都留医科大学のキャンパスを間近に、市内を一望できる景勝の地にあり、本市の芸術・文化の殿堂としてふさわしい本格的な舞台設備を施した芸術鑑賞ホールであります。

ゆとりや精神的充足を求める意識変化が強まりつつある今日、市民一人ひとりが、そのライフスタイルに

応じた文化活動を行うことができる、地域文化の醸成こそが、これからの本市発展の起動力としての役割を果たすものと確信しているところであり、「うぐいすホール」の誕生により、次世紀へ向けた本市の個性豊かなまちづくりの展望が拓けて来たと言えるのではないのでしょうか。

昨年十一月三日の開館記念式典は、故加倉井和夫画伯の作品「苑」を原画に制作された緞帳披露が行われ、高円宮様のご臨席を賜る中、大変名誉あるスタートを切る事ができました。

また、市民アンケートに基づいて、相次いで企画されておりますオープニング記念公演は、多くの音楽ファンを魅了し、好評をいただいております。特に、昨年十二月に行われた市民第九合唱団による公演は、都留医科大学管弦楽団を中心とした六〇人の市民オーケストラと一六〇人の合唱団の熱演、ホールの素晴らしい音響、そして水を打ったように聞き入る聴衆が一体となり、感動的な演奏会となりました。

今後は、既に結成されている市民吹奏楽団、ジュニアオーケストラをはじめ、音楽以外にも市民劇団、ふるさと芸能等の分野にも力を注いで

まいります。

今後も、「うぐいすホール」が当地域の文化の拠点として、多くの皆

様から愛され、親しまれ、発展できますよう温かいご愛顧をお願い申し上げます。

さて、明けて平成九年は、二十一世紀を担うと言われる超高速交通システムの誕生に、大きな期待が寄せられる年であります。

都留市を起点とした十八・四キロメートルの先行工事区間は、主要施設や設備も全て完成し、現在、水鳥

のくちばしをイメージした実験車両がガイドウェイ上に姿を現し、けん引走行による総合調整試験が行われており、四月の超電動浮上による走行実験のスタートに向けて着々と準備が進められております。

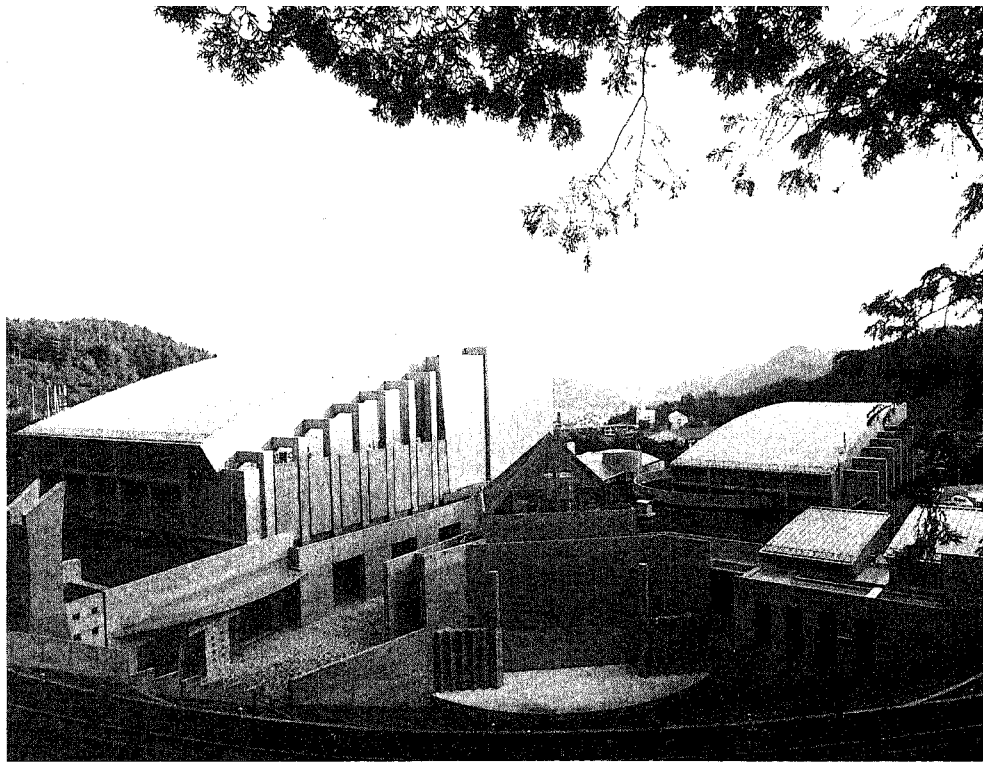
この実験が開始されますと、国内外から相当数の見学者が見込まれるため、現在山梨県において、実験車両が最も加速する「明かり区間」が一望できる展望室や資料展示室、売店等を備えた見学施設の建設が進められており、三月には完成する予定であります。

本市といたしましても、地元の観光振興を図る絶好の機会でありますので、この施設の管理運営を引き受けるべく準備を進めているところであります。

なお、売店の運営に当たりましては、都留市及び都留市商工会並びに都留市農業協同組合を母体とした（仮称）株式会社都留市観光振興公社を設立し、市内の特産物等の販売を行ってまいります。

全世界が注目する中で、本市を訪れる多くの見学者に、都留市そして山梨の素晴らしさをPRし、観光の振興に努めてまいりたいと考えております。

次に、郷土の文化や歴史を後世に伝えるとともに、本市の将来像を次世紀に相応しいものとするための博物館建設についてであります。豊かな歴史と伝統に育まれた本市にとって、市内各所に豊富に現存する文化遺産を保存し継承するための博物館



昨年11月にオープンした文化ホール